Athena Sources in the History of Travel

THE "SEE AMERICA FIRST" SERIES

In Search of National Identity, 1914–1931

「"まずアメリカを見よう"キャンペーン」旅行案内シリーズ

別冊解説：野田研一（立教大学名誉教授）

Part 1 [West 1：全4巻]

定価 本体 88,000円＋税　ISBN 978-4-86340-276-8・A5判・1990 pp. (incl. 72 col.), ill. ▶2018年10月

Part 2 [West 2：全4巻]

定価 本体 88,000円＋税　ISBN 978-4-86340-277-5・A5判・2242 pp. (incl. 34 col.), ill. ▶2018年10月

Part 3 [Northwest：全2巻]

定価 本体 44,000円＋税　ISBN 978-4-86340-278-2・A5判・992 pp. (incl. 14 col.), ill. ▶2019年10月

Part 4 [Northeast：全4巻]

定価 本体 88,000円＋税　ISBN 978-4-86340-279-9・A5判・1948 pp. (incl. 35 col.), ill. ▶2019年10月

Part 5 [South：全3巻＋別冊解説]

定価 本体 66,000円＋税　ISBN 978-4-86340-280-5・A5判・1388 pp. (incl. 20 col.), ill. ▶2020年10月

Athena Press

Picturesque Americaから "See America First"の時代へ

野田 研一●立教大学名誉教授

「まずアメリカを見よう」(See America First)というスローガンが、アーネスト・ヘミングウエイの『日はまた昇る』(1926) にちらりと姿を見せる。ヘミングウエイの登場人物は往々にしてヨーロッパを旅するアメリカ人たちだが、そんなアメリカ人のひとりが呟くことばが「まずアメリカを見よう」である。それはこのスローガンが当時のアメリカ人たちの旅の意識の一部を規定し、性格づけていたことを証立てている。(注1)

「まずアメリカを見よう」キャンペーンはアメリカ国内における観光と経済の振興策であり、また、20世紀初頭のナショナル・アイデンティティ形成の基盤ともなっていた。このキャンペーンを土台として生まれた出版物が、1914年から1931年までの期間に刊行された旅行ガイドシリーズ *See America First* series である。

このシリーズが歴史・文化的にいかなる意味をもつか、今後多面的な検討を要することになるであろう。とりわけ、ほぼアメリカ全土をカバーする初めての旅行ガイドとして企画・刊行された本シリーズは、旅行ガイドブックとしての記述様式、場所・景観の選定、風景感覚/美学、交通機関や宿泊施設などインフラの整備状況などの紹介を通じて、多面的に時代の意識やイデオロギーや歴史性を映し出している。

とくにここで注目したいのは時代の問題である。本シリーズが刊行された1914年から1931年までの期間とはどのような時代であったか。マーガリート・S・シェイファーは、"See America First Movement"に関するほぼ唯一の研究書であるその著書、*See America First: Tourism and National Identity, 1880-1940* (2001)において、そのサブタイトルが示すとおり、対象とする時代を1880年から1940年までの60年としている。いっぽう、歴史学者ピーター・J・シュミットによる名著、*Back to Nature: The Arcadian Myth in Urban America* (1990)もまた、奇しくも1880年を起点として1920年までの40年間を対象として、それを「自然回帰運動」(Back to Nature Movement)の時代として把捉している。

上の二つの文献に基づいて、19世紀末から20世紀への世紀転換期の40年ないし60年間に起こったことを要約すれば、それは「自然回帰運動」と「まずアメリカを見よう」キャンペーンが連続的・連携的に時代の思潮を方向づけていた時代ということができよう。加えて、1880年の少し前の1872年から74年にかけては、豪華2巻本 *Picturesque America; or, The Land We Live In*(以下、*Picturesque America*)が刊行されていることも注目に値する。じっさい、シェイファーは、この *Picturesque America* から"See America First"シリーズへの継承過程に注目している。

Picturesque America は、それまでに19世紀アメリカで大量に流布された(1000種類を越えるとされる)、いわゆるピクチャレスク本の頂点を提示していた。当代有数の知識人であった詩人ウィリアム・カレン・ブライアントを編者として迎えたこの本は、自然や風景をめぐるアメリカン・ピクチャレスク美学の集大成であるばかりでなく、アメリカにおけるナショナリズムすなわち「アメリカの自己イメージ」の拡大と深化を語る図像集としての役割を雄弁に語っている。刊行後、約100年を経た1969年に、この豪華本の抄本(題名:*America Was Beautiful*)を刊行したメトロポリタン美術館の館長は、次のように回顧している。(注2)

> それはアメリカが希望に燃えた夜明けの時代でした。誰もが熱っぽかった時代、アメリカという土地の広大さと無限の可能性を発見した時代だったのです。たしかにアメリカは美しかった。

Picturesque America を読み、賞翫することを通じて、私たちはまぎれもなく「美しかりしアメリカ」、歴史学者ペリー・ミラーのいうnature's nationとしてのアメリカの美意識と美学の究竟項を深く認識することができる。*Picturesque America* はその意味で風景として把握された19世紀アメリカの記憶である。だが、ひとつだけ気がかりなことがあった。それはこのように頂点を極めた「アメリカ風景論」はそのさきにどのような展開を見せたのか。それがかならずしも明確ではないという事実であった。*Picturesque America* は、その後どのように継承されていったのか。あるいは、みずからを頂点としたまま途絶して、その風景美学は19世紀的なるものとして凍結されただけであったのか。

Picturesque America 以降の「自然回帰運動の時代」を経て、20世紀における風景美学の大きな転換点を指し示すのが"See America First Movement"であり、その具体的結実としての出版物、*See America First* seriesである。「純粋自然」としてのウィルダネス保護への動きが加速し、国立公園の制定、自然保護団体の設立から「自然学習」(nature study)運動の開始、ネイチャーライティングの登場などへと連動していった19世紀末から20世紀初頭の「自然回帰の時代」。アメリカ環境思想を検討する上で決定的な事象が次々に実現していったこの時代に関する不可欠の資料、それが *See America First* seriesである。これまではっきりと見えなかったものが見えてくるはずである。

注1 詳しくは、日本における"See America First"に関する稀少な先行研究、小笠原亜依氏による『幻視する原初のアメリカ―「まずアメリカを見よう」キャンペーンとヘミングウェイの風景』(野田研一編『〈風景〉のアメリカ文化学 シリーズ・アメリカ文化を読む2』、ミネルヴァ書房、2011)を参照されたい。

注2 *Picturesque America*に関しては、野田研一「ピクチャレスク・アメリカ―一九世紀風景美学の形成」(野田研一『交感と表象―ネイチャーライティングとは何か』、松柏社、2003)を参照されたい。

景観価値の発見と See America Firstキャンペーンの展開

森下 直紀●和光大学経済経営学部専任講師

19世紀末のフロンティアの消滅とともに、アメリカ合衆国の主要産業はそれまでの農業から工業に代わり、その後の半世紀の工業化の進展によって、アメリカは世界の列強となった。まさに、「現代アメリカ」の形成期であった。See America Firstシリーズは、この時期に展開された一連のキャンペーンである。マーガリート・S・シェイファーの *See America First: Tourism and National Identity 1880-1940* (2001) によれば、このキャンペーンの目的は、当時年間1億5000万ドルもの金額がアメリカから主にヨーロッパの観光に向かう人たちによって支出されていることを憂慮し、メキシコ・カナダを含めた北米の景観的魅力について当の北米住民が無知であることを指摘し、北米景観の魅力を訴えていくことで、国外に流出している資金を国内に還流させることにあった。See America Firstは、マーケティング戦略を駆使した現代的な観光キャンペーンであるとともに、この時期の社会の変化に戸惑う人々が、旅行者として自分たちの「アメリカ」を発見する役割を担った。

See America First運動を唱道したのは、西部各州の知事経験者たちであったが、彼らが北米の景観を発見したのは、おそらくヨセミテ国立公園を含むダム計画の是非をめぐって展開された景観論争が契機となっているものと思われる。西漸運動の結果、急速に膨張する都市の水需要に対してサンフランシスコ市当局は、将来の水需要を賄う大規模水源をサンフランシスコから約240km離れたシエラネヴァダ山脈奥地に求めた。当該計画は、水源開発のためのダムを、ヨセミテ国立公園を含む複数の流域に建設しようとするものであった。1901年に立案されたこのサンフランシスコの水源開発計画は、国立公園を所管する内務省の歴代長官によって幾度も退けられた。この論争が、国立公園開発論争と考えられている所以である。しかし、1906年のサンフランシスコ大地震に伴う大規模都市火災は、消火用水の不足から水源開発を阻んできた連邦政府への不満となり、ついに内務省を動かすことに成功した。1908年の内務長官による開発許可から間もなく、開発反対運動が提起された。このダム開発論争は、パイプラインやダム開発用地を連邦からサンフランシスコに譲渡するための法案をめぐって連邦議会を中心に展開することになった。

しかしながら、このダム開発論争は、国立公園開発のみを問題にした論争ではなく、実際には保護されるべき景観とは何かをめぐっての論争であった。というのも、反対運動のカリスマ的存在であったジョン・ミューアは、国立公園内に計画された2つのダム計画地の内の一方については開発を容認する見解を示していた。最終的に連邦議会を動かしたものは、1912年にサンフランシスコ市の報告書に示されたダム開発後の景観予想図であった。当時の先端技術であった合成写真の手法を用いてダム湖の景観を示し、元の渓谷の景観を損なわないことを示したのであった。結果としてサンフランシスコは、シエラネヴァダ山脈に大規模な都市水源を持つことが可能になったが、この論争のもう一つの成果として1916年に国立公園局が設立されることになった。その後現在にいたるまで、国立公園内で水源開発はおこなわれていない。優れた景観を保護するための制度的管理が確立したためである。

See America Firstキャンペーンは、同時代のアメリカ西部やその他の地域における景観的魅力を観光資源として活用することを目的としている。シリーズ各巻に収録された様々な地域は紀行文形式で記述され、景観の魅力とともに当時の社会的状況も生き生きと描かれている。特に目を引くのが、カナダの「ブリティッシュ・コロンビア」である。北米では、1880年代以降に東欧諸国やアジアからの大量の移民が流入し、徐々に政治問題化していくが、移民を含む地域の当時の様子をうかがい知ることのできる貴重な資料となっている。

Contents

Part 1 [West 1]

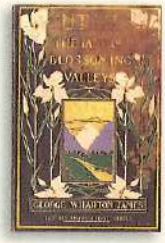
ISBN 978-4-86340-276-8 • A5判 • 1990 pp. (incl. 72 col.)
全4巻定価　本体88,000+税

1-1: George Wharton James **California: Romantic and Beautiful** (1914)
1-2: Thomas Dowler Murphy **On Sunset Highways: A Book of Motor Rambles in California** (1915)
1-3: Thomas Dowler Murphy **Oregon: The Picturesque** (1917)
1-4: Thomas Dowler Murphy **Seven Wonderlands of the American West** (1925)

Part 2 [West 2]

ISBN 978-4-86340-277-5 • A5判 • 2242 pp. (incl. 34 col.)
全4巻定価　本体88,000+税

2-1: George Wharton James **Arizona: The Wonderland** (1917)
2-2: Mae Lacy Baggs **Colorado: The Queen Jewel of the Rockies** (1918)
2-3: George Wharton James **New Mexico: The Land of the Delight Makers** (1920)
2-4: George Wharton James **Utah: The Land of Blossoming Valleys** (1922)



Part 3 [Northwest]

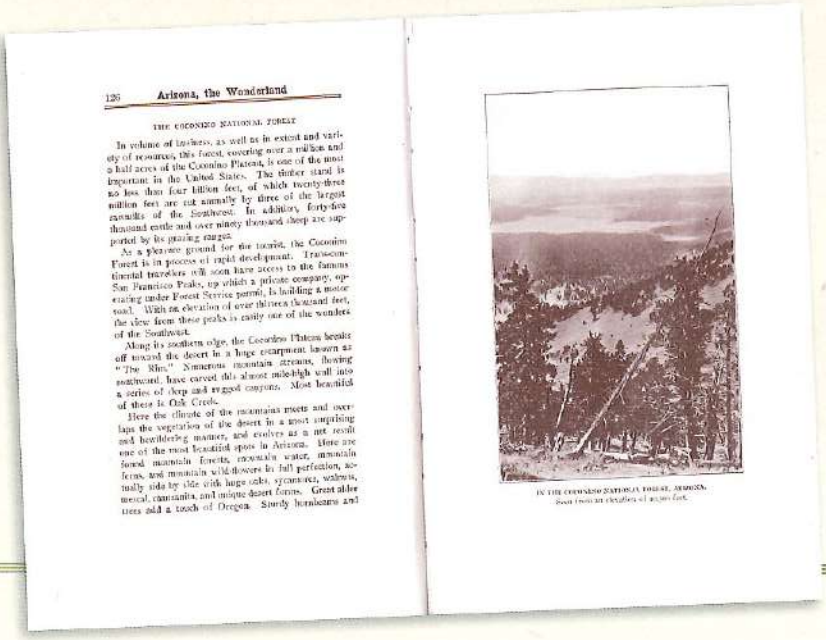
ISBN 978-4-86340-278-2 • A5判 • 992 pp. (incl. 14 col.)
全2巻定価　本体44,000+税

3-1: Archie Bell **Sunset Canada: British Columbia and Beyond** (1918)
3-2: Agnes Rush Burr **Alaska: Our Beautiful Northland of Opportunity** (1919)

IN SUNSET SEAS

SNOQUALMIE TUNNEL, COLUMBIA RIVER HIGHWAY

OLD FAITHFUL GEYSER, YELLOWSTONE PARK
Courtesy Northern Pacific Railway


126 Arizona, the Wonderland

THE COCONINO NATIONAL FOREST

In volume of timber, as well as in extent and variety of resources, this forest, covering over a million and a half acres of the Coconino Plateau, is one of the most important in the United States. The timber stand is no less than four billion feet, of which twenty-three million feet are cut annually by three of the largest sawmills of the Southwest. In addition, forty-two thousand cattle and over ninety thousand sheep are supported by its grazing ranges.

As a pleasure ground for the tourist, the Coconino Forest is in process of rapid development. Transcontinental travelers will soon have access to the famous San Francisco Peaks, up which a private company, operating under Forest Service permit, is building a motor road. With an elevation of over thirteen thousand feet, the view from these peaks is easily one of the wonders of the Southwest.

Along its southern edge, the Coconino Plateau breaks off toward the desert in a huge escarpment known as "The Rim." Numerous mountain streams, flowing southward, have carved this almost mile-high wall into a series of deep and rugged canyons. Most beautiful of these is Oak Creek.

Here the climate of the mountains meets and overlaps the vegetation of the desert in a most surprising and bewildering manner, and evolves as a net result one of the most beautiful spots in Arizona. Here are forest, mountain forests, mountain water, mountain ferns, and mountain wild flowers in full perfection, actually side by side with huge cacti, sycomores, walnuts, mesquit, cottonwoods, and unique desert forms. Great alder trees add a touch of Oregon. Sturdy hornbeams and

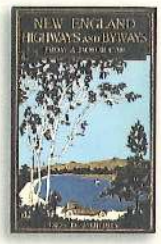
IN THE COCONINO NATIONAL FOREST, ARIZONA.
Scene from an elevation of 10,000 feet.

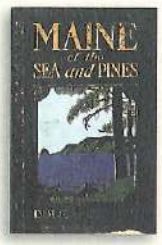
SYLVAN LAKE—MOUNTAIN, YELLOWSTONE
From the original Painting by H. H. Dale

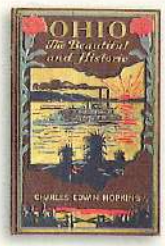
Part 4 [Northeast]

ISBN 978-4-86340-279-9 • A5判 • 1948 pp. (incl. 35 col.)
全4巻定価　本体88,000+税

4-1: William Copeman Kitchin **A Wonderland of the East: Comprising the Lake and Mountain Region of New England and Eastern New York** (1920)
4-2: Thomas Dowler Murphy **New England Highways and Byways from a Motorcar: "Sunrise Highways"** (1924)
4-3: Nathan Haskell Dole and Irwin Leslie Gordon **Maine of the Sea and Pines** (1928)
4-4: Charles Edwin Hopkins **Ohio: The Beautiful and Historic** (1931)



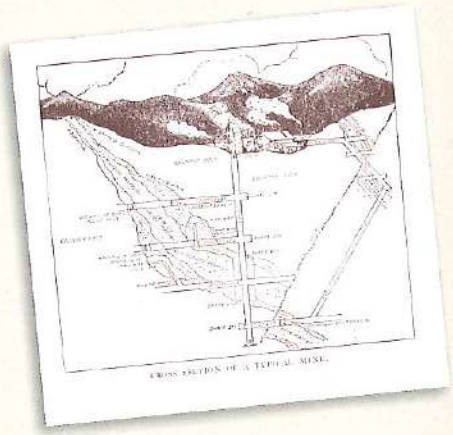




Part 5 [South]+別冊解説

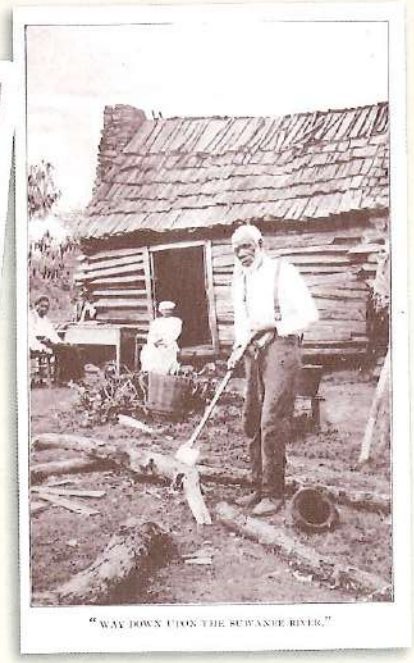
ISBN 978-4-86340-280-5 • A5判 • 1388 pp. (incl. 20 col.)
全3巻定価　本体66,000+税

5-1: Nevin Otto Winter **Texas: The Marvellous** (1916)
5-2: Nevin Otto Winter **Florida: The Land of Enchantment** (1918)
5-3: Frank and Cortelle Hutchins **Virginia: The Old Dominion** (1921)


CROSS SECTION OF A TYPICAL MINE.

Photograph by George Wharton James
AN APACHE MAIDEN WATER-CARRIER AT PALOMAS, ARIZONA.

A TRAPPER IN COSTUME.


"WAY DOWN UPON THE SUWANEE RIVER."

「現代アメリカ」形成期の、自分たちのアイデンティティを探す出版物

【本シリーズの背景と内容】

シリーズ名となっているSee America First (SAF) という言葉は元々20世紀初頭にミシシッピ川西岸への旅行を促進しようとした人々が用いていたキャッチフレーズ「See Europe if you will, but see America first」から生まれた標語でした。地域のビジネスマン、政治家、鉄道会社が旗振り役となって、広告やパンフレット、雑誌などの発行や、講演の開催などのキャンペーンが展開され、SAF Dayの制定も試みられるなど、1910年あたりまでそれなりの動きを見せました。

ただ、このときはどの取り組みも十分な資金がなく、やがて全体的に薄れてしまいましたが、1914年7月に第一次世界大戦が勃発した際、ヨーロッパ旅行は事実上不可能となって、このキャンペーンが再度取り上げられることになります。その契機は1915年のパナマ・太平洋万国博覧会でした。万博の運営者はSAFを開催基調の一つとしました。この時は企業や行政のサポートが拡充して、また第一次世界大戦で愛国主義にも火が付いて、このキャンペーンは成功します。具体的には、商業面において、主要な鉄道会社がイエローストーン国立公園、グランドキャニオン、日干しレンガを用いた集合住宅が特徴のプエブロインディアンの集落といった観光地の精巧なジオラマを製作、展示して、旅行の気運を刺激しました。一方思想面において、この万博を通じてSAFのスローガンがいろいろな形で用いられるなかで、「真」のアメリカは西部の風景の中にこそ見出せるだろう、そしてその自然環境の豊かさが、強国への歩みを支えるとともに、旧世界＝ヨーロッパの腐敗した文明にとって代わるべき価値観を示しているのだ、ということが印象付けられていきました。

SAFキャンペーンに関する出版物は、およそ当時の一過性のものしか残っていませんが、ボストンのPage & Company 社による一連のガイドブックが最もはっきりしているものです。このシリーズは北米を旅する人に全体的な概要を示す初めての出版物となりました。見どころ、交通の便、宿泊等、実用的な情報を並べた標準的な内容構成を持つドイツのベデカー社の旅行ガイドとは異なり、SAFシリーズは旅行者をその土地の核心へといざなう内容で、アメリカ全土を生き生きと描写するように企図され、単に絶景を集めただけとは違う、独特の地理や歴史から生じる国民統合の物語を構築するように制作されました。

本シリーズは1914年に『カリフォルニア』(G. W. James) の刊行でスタートしたました。著者Jamesはカリフォルニア州と南西部の専門家として知られます。このガイド書は、単に景勝地や史跡を集成するだけでなく、カリフォルニアがいかにアメリカの独自性に関わっているかを明確に示し、それをカリフォルニアの「本質」として伝えようとしました。ほとんどの巻がこれと同様の形式で書かれており、アトラクションや観光名所だけでなく、開拓と定住の歴史、自然資源と農業発展、動植物の生息状況などについても概観される内容となっています。

一方、T.D. Murphyの書いた4冊とW. C. Kitchinのニューイングランドについての巻は、自動車旅行をする人のために書かれた内容で、旧来の個人旅行記録のようなルートを辿る書き方で観光名所や歴史的な聖地を案内しています。Murphyは自動車旅行関連書の編集、出版、著述に関わった人物です。

このように本シリーズは、個人的な旅記録という古くから存在する記述形式による巻 (MurphyやKitchin) と、1890年代以来のいわゆる「進歩主義時代」的な知見を盛り込んだ記述形式による巻 (Jamesほか多数) の、2系統の編集形式で成っていますが、このことは読者にアメリカ旅行を計画する際に総合的な見通しを持たせることに成功したと評価されています。シリーズ全巻のうちほぼ半分が西部を占めており、その大半はシリーズ開始からすぐに刊行されました。1920年代になるとあまり新刊は出なくなり、1931年にオハイオが出た後は、不況の影響もあってか、告知されていたジョージア、ルイジアナ、五大湖などは刊行されることなくそのままシリーズは終了となりました。

なお、ほとんどの巻はこのシリーズ用に指定されて書き下ろされていますが、このシリーズが計画される以前に出版されたタイトルを再販あるいは改訂して加えたものがいくつかあります。*Seven Wonderlands of the American West* (1925) は1912年刊行の*Three Wonderlands of the American West*の改訂版、*Virginia: The Old Dominion* (1921) は1910年刊行の*Houseboating on a Colonial Waterway*の改訂版です。またレイクタホを取り上げた*The Lake of the Sky*というタイトルがシリーズリストに記載がありますが、これはもともと1915年に刊行されたものを本シリーズ用に再版したもので、ほかでレイクタホが扱われていることあり今回の復刻に加えませんでした。また、パナマに関する2冊がやはり再発行という形でシリーズの初期に加えられていましたが、内容構成や記述形式が他のタイトルと異なり整合性が薄く、これはおそらく出版社がパナマ運河開通と1915年のパナマ・太平洋万博開催に対する世間の関心に便乗を図ったものと思われ、結局は後のリストから削除されており、本復刻にも加えていません。

【発　行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス

〒112-0011　東京都文京区千石4-33-18

Tel：03(3946)2117　Fax：03(5977)8026

E-mail：eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】